①－４ 学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士
商業実務		商業実務関係専門課程	会計ビジネス学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
２年	昼	1,822 単位時間	1,540 単位時間	87 単位時間	195 単位時間	単位時間	単位時間
			1,822 単位時間				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
６０人	４５人	０人	６人	４人	１０人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）

経済や社会が移り変わっても、企業を支える土台となるのは会計に関する専門知識である。専門知識を習得するため全員が日商簿記２・３級の取得を目指す。日商簿記２・３級の知識をベースに、日商簿記１級及び全経簿記上級や国家試験であるファイナンシャル・プランナーなど高度な資格の取得を目指しチャレンジしていく。さらにパソコンなど経理の実務に必要な幅広い知識と技能､対応マナーやプレゼンテーション技能を習得して、信頼される経理事務管理者などの人材を育成する。

１年次：会計の土台となる簿記を基礎から学ぶ、２年次：会計に関する知識を深め、ビジネスマナーやプレゼンテーション能力を高める

成績評価の基準・方法

（概要）

学生が履修した授業科目の成績の評価及びグレード・ポイント（評価により与えられる数値。以下「ＧＰ」という。）は、下記の表のとおりとする。

評価		得点	ＧＰ
A	基準を超えて優秀である	８０点以上	3.0
B	基準に十分達している	７０～７９点	2.0
C	単位を認める最低限の基準に達している	６０～６９点	1.0
D	基準を下回っている（不合格）	５９点以下	0

ＧＰＡは、次の式により計算するものとし、その数に小数点以下第二位未満の端数があるときは、小数点以下第三位の値を四捨五入するものとする。

$$ＧＰＡ＝\frac{（ＧＰ×時間数）の総和}{履修科目の総時間数}$$

卒業・進級の認定基準

（１）進級の要件

① 年次出席率 80%以上

② 科目ごとの総合評価がすべてＣ以上

③ 学費及び補助活動費が納入済み

※上記①～③の条件のすべてを満たさない者は、進級できず留年となる。ただし、特別に学校長が認めた者については、この限りではない。

（２）卒業の要件

① 卒業基準検定・資格の取得、これを満たせない者は、同等レベルの認定試験を受験し合格すること。認定試験を受けるに際しては、他の検定取得状況、出席状況によってその受験資格の有無が決定される。

② 年次出席率 80%以上

③ 科目ごとの総合評価がすべてＣ以上

④ 学費及び補助活動費が納入済み

※上記①～④の条件のすべてを満たさない者は、卒業できない。但し、特別に学校長が認めた者については、この限りではない。

学修支援等

（概要）

・入学前のガイダンスにて学校全体の説明。
・入学後のオリエンテーションにて学科概要を説明。
・就職研修による就職指導。
・個別面談、三者面談で学生の状況を把握。

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
１８人 (100%)	０人 (　　0%)	１６人 (88.8%)	２人 (　　11.2%)

（主な就職、業界等）

税理士事務所、銀行、一般企業経理部門

（就職指導内容）

面接・作文・筆記試験・履歴書指導

（主な学修成果（資格・検定等））

ファイナンシャルプランニング技能検定、日商簿記検定、全経簿記能力検定、
建設業経理士検定、社会福祉会計簿記認定試験、所得税法・法人税法・消費税法能力検定、
Word 文書処理技能認定試験、Excel 表計算処理技能認定試験、
コンピュータ会計能力検定、電卓計算能力検定(段位)

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
４１人	１人	２．４%

（中途退学の主な理由）

病気療養

（中退防止・中退者支援のための取組）

面談・カウンセリング・遅刻管理・出欠席管理・学生アンケート